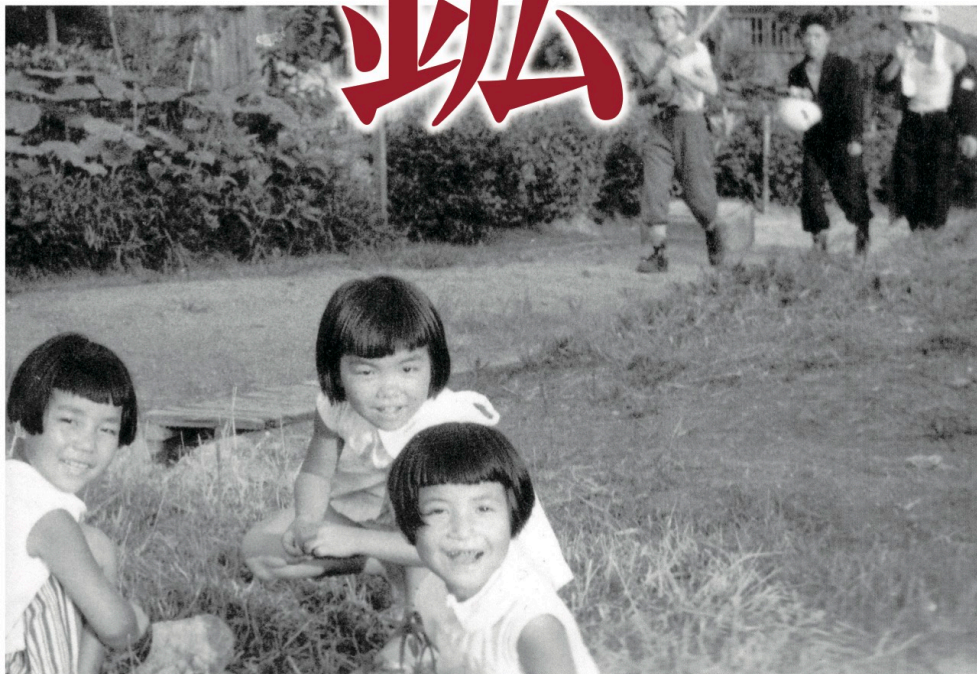


2017年度 関西大学博物館夏季企画展

関西大学経済・政治研究所「大阪の社会労働運動と政治経済研究班」

炭の記憶と関西 鉾

—三池炭鉾閉山20年展—



私たちは、炭鉾があった町で生まれ育ちました。戦争が終わり、何もなかった時代、親たちは住む家と日々の糧を求めて炭鉾で働くようになったからです。厳しい労働の中、いつの頃からか、「団結」というキズナが生まれました。「仲間」と呼び合える友にも出会いました。貧しくとも、未来を見つめ、闘い続けました。時には大切な仲間たちを失ったこともありました。そして、いつしかヤマの灯は消えてしまいました。しかし、炭鉾の記憶は消えるどころか、よみがえってくるばかり。炭鉾であったことを忘れないでほしいと、親たちの声が聞こえる。

「異風者からの通信」主宰 前川 俊行



2017年6月6日(火)～6月30日(金) 10時～16時

関西大学博物館特別展示室(関西大学千里山キャンパス 簡文館内)

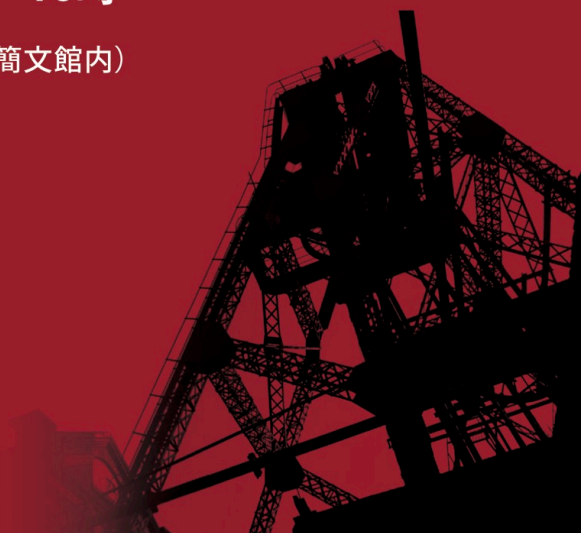
入館料／無料 日曜休館 6月11日(日)は特別開館日



関西大学博物館
Kansai University Museum

〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35 TEL.06-6368-1171 / Fax. 06-6388-9928
[E-mail] hakubutsukan@ml.kandai.jp [HP] <http://www.kansai-u.ac.jp/Museum/>

主催：関西大学経済・政治研究所 関西大学博物館 エル・ライブラリー (大阪産業労働資料館)
協力：関西・炭鉾と記憶の会 ほか 後援：福岡県 大牟田市 荒尾市



ごあいさつ

この展示は経済・政治研究所「大阪の社会労働運動と政治経済研究班」(2013-2016年度)の研究成果発表の場として位置付けられます。エル・おおさと関西大学博物館での巡回展として展示会を持てることは、本学の教育・研究の成果としても大きな意味を持ちます。本学において炭鉱の労働と生活がテーマの展示会を開催するのはこれが初めてであり、学生にとって炭鉱は「新発見」の連続となることでしょう。

研究班では『研究双書』を2015年3月と2017年3月に刊行し、9名の研究員がそれぞれの研究成果を示しました。その中で当研究所委嘱研究員である谷合佳代子・大阪産業労働資料館館長は「炭鉱離職者と関西の労働運動」に関する研究を報告しています。

その成果をもとにした本展示が本学学生のみならず、ご来場されたすべてのみなさまに、近代日本の発展を支えた炭鉱の歴史に思いを馳せるものとなることを願っています。

関西大学博物館館長 米田 文孝

関西大学経済・政治研究所「大阪の社会労働運動と政治経済研究班」主幹 植村 邦彦

関連催事

【シンポジウム】

「炭鉱の記憶と関西をつなぐもの —多様な声を時空に刻む—」

2017 年

6月11日(日) 13:00～15:00

会場：関西大学児島惟謙館

入場無料

登壇者：前川俊行、上田茂(三池炭鉱の社宅で育った人々)
鵜飼雅則(大牟田市出身。炭都と文化の展示を担当)
向井美香(大牟田市出身)

コーディネーター：青木 恵理子(龍谷大学社会学部教授)

コメンテーター：西牟田 真希(関西学院大学非常勤講師)

Map

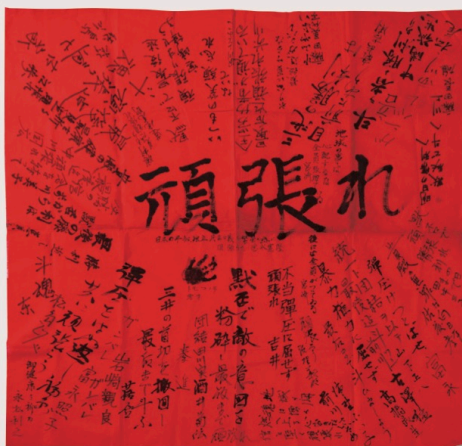


関西大学博物館

関西大学千里山キャンパス 簡文館内
〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35

■アクセス/関西大学千里山キャンパス

阪急千里線「関大前」駅下車 徒歩10分 ※お車でのご来場はご遠慮ください。



赤旗



子守唄人形



社宅立体模型



ホッパーパイプ



キャップランプ



石炭人形



西部美術学園の子どもの絵